

Win書庫の分類記号（注）は、基本書誌データの分類記号と、個別館書誌データの分類記号の2種類あります。この2つの分類記号については、これまで「分類記号は3桁で入力」という説明以外、明確な仕様を示していませんでしたが、1桁分類や2桁分類で運用している図書館があったり、絵本（E）などの簡易分類を想定外の利用方法で運用されている図書館があることが分かりました。このことに起因する問題が、いくつかのメニューで散見するようになりましたので、Win書庫V4.1（R 4.1074）以降で、分類記号の仕様を次のように設定することにします。設定に合致しない分類データは、合致するように修正することを推奨しますが、現状のまま運用しても、大きな問題は無いと考えています。また、分類記号を、新しい仕様に合致させる為のメニュー「問題のある分類記号の修正」を準備しますが、修正すべき資料が多い場合は、相当の手間がかかります。（分類記号が未入力の資料は、自動修正できません。）

1. 基本書誌の分類記号は、基本的には、「NDLサーチ」の分類記号をそのまま適用して下さい。自館の特性（校種など）に関わらず、標準の分類記号として入力します。基本書誌の分類記号は、分類番号での書誌検索の精度を高めるのに役立ちます。個別館書誌の分類記号は、基本的には、基本書誌と同じ分類記号を適用しますが、自館の特性を考慮した異なる分類記号を入力してもかまいません。
2. 分類記号は、3桁以上の数字で入力することを基本とします。4桁以上の数字で入力する場合は、3桁目と4桁目の数字の間に、「.」（ピリオド）を入力します。

※一部に、2桁目と3桁目の間にピリオドを入れている利用校があるようですが、これは、上記「問題のある分類記号の修正」で、一括して修正できます。

※8版以前のNDCでは、小中学校では、1・2桁の分類記号の使用も可能と記載がありましたが、図書館のコンピュータ運営が一般的になった9版・10版では、図書館のコンピュータ管理との関わりで、校種に関わらず、3桁以上の分類を推奨しています。Win書庫では初期のバージョンから、分類記号は、3桁以上で入力して頂くように説明していますが、どうしても1桁分類、2桁分類で運用したいとお考えの場合は、9ではなく900、91ではなく910のように、ゼロを補って3桁にして入力して下さい。分類記号の本来の機能は低下しますが、Win書庫の動作としては問題が起こらなくなります。

※「問題のある分類記号の修正」を使用すると、1・2桁の分類記号を、自動的に3桁分類に拡張することができます。

※Win書庫V4.1（R 4.1074）以降の【書誌登録】では、分類記号の仕様に合致するように、入力された分類記号を補正する機能を追加しています。

3. 【書誌登録】時、基本書誌に入力した分類記号は、自動的に、個別館書誌の分類にも適用されます。個別館書誌に、別の分類記号を入力する場合は、上書き入力して下さい。（逆に、基本書誌の分類が未入力の時、個別館に分類記号を入力すると、その分類が、基本書誌にも反映されます。）また、個別館書誌の分類記号は、「書架分類」と想定していますので、配架は個別館分類に従って行う事を推奨します。
4. 分類記号による各種統計は、「個別館書誌の分類記号」を使用して集計します。この時、個別館分類が未入力の場合、基本書誌の分類を利用して集計します。両方に分類記号が入力されていない場合は、分類による統計は「分類不明」として集計します。

5. アルファベットによる簡易分類は、絵本 (E/726.6)、コミック (C/726.1)、紙芝居 (P/779.8)、子供向けの本 (K) の4種類のみ利用できます。E・C・Pは、アルファベットのみで入力しても、自動的にそれぞれのNDC分類が割り付けられるので問題はありますが、「K」は、特定の分類記号に紐付かないので、資料のNDC分類の入力が必要です。(K210 など)

E・C・Pについても、固定の分類番号だけでなく、[アルファベット+NDC分類]の形で入力することもできます。(E913 や C391 など)

5. 簡易分類を使用する場合でも、**基本書誌データの分類記号には、アルファベット部分は適用しません**。(基本書誌データの分類に、E726.6 と入力しても、726.6 のみがセットされ、同時に、個別館データの分類に、E726.6 がセットされます。)

※E・C・P・Kについては、**個別館書誌の分類記号にのみアルファベットが付加され、基本書誌には付加しないことに注意して下さい**。

注：これまで画面表示等で使用してきた用語「分類番号」は、今後NDCで使用している用語「分類記号」に変更します。また、E (絵本) などの簡易分類については、E等のアルファベット部分を「簡易記号」、数字部分を「分類番号」という表記に統一します。(従って、「分類記号」は、ほとんどの場合は「分類番号」のみで、一部に「簡易記号」+「分類番号」で入力されることとなります。)

今回上記のように確定した、Win書庫での分類記号に関わる仕様について、各メニューが、仕様に沿った動作を行うように、順次プログラムの微調整を行ってゆきます。この微調整による影響は、ほとんど無いと考えていますが、次のような運用を行っている利用校におかれましては、前述の【問題のある分類記号の修正】メニューを使用して、分類記号の修正を行っていただくようお願いいたします。(修正プログラムは、【書誌登録】のメニューバー「メニュー」から、起動できるようになります。)

- ・1桁や2桁の分類番号を使用している場合 (9 、 91 など)
※上記の修正プログラムで、自動的に3桁に拡張した分類記号に修正されます。
9 → 900 91 → 910
- ・ピリオドの位置が、NDCの規定に従っていない場合 (91.3 など)
※上記の修正プログラムで、自動的にピリオドを削除します。
91.3 → 913

修正プログラムで一括修正する場合は、安全の為に必ず書誌データのバックアップを行って下さい。バックアップは、修正プログラム起動時の画面で行うことが可能です。

参考：R 4.1074 以降の【書誌登録】メニューでの分類記号の入力補正について

- ・1桁・2桁で入力した分類番号は、ゼロを補って3桁に修正されます。
- ・不正な位置に入力されたピリオドは、正しい位置に修正されます。
- ・簡易分類は、先頭位置のE/C/P/Kだけが許可され、これらの記号を含め、分類番号部分に数字とピリオド以外を入力した場合は、再入力及要求されます。
- ・EやCなどの記号を1桁で入力した場合は、規定の簡易分類番号に置換されます。この時、基本分類では、記号は削除され、個別館分類は、記号が付きます。
- ・E913やK351等の形式で入力すると、基本分類では、記号 (EやKなど) が削除された分類番号部分のみが入力され、個別館分類は、そのまま記号付きで入力されます。